

は し が き

本報告者は、メディア教育開発センターの研究プロジェクト「学術・教育映像資料の統合型データベースシステムの開発研究」のサブテーマである「素材映像の研究」にかかわる研究報告である。

この研究は、高等教育におけるメディア活用を推進するために、学術・教育資料をデジタル電子化資料として流通させるための素材映像、電子化手法、知的資源の映像化手法などの基礎的研究、データベース事業の先導的な研究開発としてのプロトタイプ・データベースシステム開発をおこなっており、(1) 素材映像の研究、(2) 学術・教育資料の電子化手法の研究、(3) 知的資源の映像化の研究、(4) 統合型データベースシステムの開発、(5) データベースの仮想空間への展開などのサブテーマを設定して総合的な研究開発を推進している。本報告書は、「素材映像の研究」目的である、素材映像の高等教育における利用評価を通じて利用構造を明らかにし素材映像の確保と制作手法の確立を目指し今後のデータベース事業に資するために研究をおこなった成果である。

本研究を主として担当した井出助教授は、長い放送教育番組制作の経験者であると同時にマルチメディアなどの新しいメディアに関する研究も「知的資源の映像化の研究」などを通じて十分な知見を有している研究者である。このようなことから、本研究は、まず、既存の教育番組の理解と時間構造の関係について考察し、次に、高等教育等で対象とする体系的理解や論理的表現と素材映像の特性について研究し、素材映像の制作手法と理解との関係について仮説をたてている。そして、それに基づいて、放送大学の映像資料を用いて心理学分野における実践研究をおこなっている。結論としてデジタルコンテンツを視野にいれた学術・教育分野における有効な素材映像の確保・制作手法を明らかにするとともに、素材映像制作の量産化の方法についても言及している。

本研究は、今後の高等教育におけるメディア活用に不可欠なコンテンツ、特に素材映像の特性、制作手法の具体的な方向性を示した意味で有用であると考えている、最後に本研究に協力いただいた、聖心女子大学鳥居修晃教授、聖心女子大学川上清文教授、九州大学遠藤利彦助教授、東京理科大学吉江 修講師に感謝する次第である。

平成12年 9 月

「学術・教育映像資料の統合型データベースシステムの研究開発」主査 菊川 健